

もも・ネクタリン特報 ①

令和6年3月1日
JA中野市営農センター
JA中野市りんご・もも部会

本年の生育は、平年・昨年に比べて早まる見込みです。園地内をよく確認して薬剤散布の準備は早めに行ってください。

第1回目の防除に向けて、剪定作業・SS 走行路の確保・SS の試運転等を進めて下さい。

(参考：平岡地区 過去発芽日 R6 発芽予想)

あかつき	平年	R6 (予想)	R5	R4	R3	R2
発芽日	3/30	3/20頃	3/22	4/4	3/25	3/22



【休眠期（発芽前）の散布】 *もも・ネクタリン共通

※昨年、縮葉病の発生が多かった園地や、カイガラムシ類の発生密度が高い園地は、休眠期の防除を徹底しましょう。特に、縮葉病は薬剤散布での死角となる部分（園地外周、樹の上部や先端）に多く発生が見られます。

薬剤散布時は風のない穏やかな日を選び、散布ムラのないよう樹全体に十分量を散布しましょう。

散布時期	発芽前（3月中旬）	散布日	月	日
散布薬剤	水	98ℓ 当たり		
	アプロードフロアブル	100ml		
	キンセット水和剤 80	100g		
	スプレーオイル	2ℓ		
対象病害虫	縮葉病・せん孔細菌病・カイガラムシ類・ハダニ類			
散布量	10a 当たり：300ℓ			
注意事項	① アプロードフロアブル：もも（14日前、3回） ネク（7日前、2回） ② キンセット水和剤 80：もも 開花直前まで（但し収穫 60日前、5回） ネク（開花直前、5回） ③ 【代替】キンセット水和剤 80、アプロードフロアブルに代えて、石灰硫黄合剤の 10 倍でもよい。ただし、隣接するハウスビニールにはかからないように注意する。			

次面には病害虫対策、凍害対策、摘蕾など記載

次回特報配布日
3月15日（予定）

【せん孔細菌病・縮葉病・カイガラムシ類・コスカシバ防除対策】

- ① 【せん孔細菌病対策】：枯れている枝は、見つけ次第切除する。
- ② 【縮葉病対策】：昨年発生が多かった園地では、発芽前散布を徹底する。
(散布ムラの無いよう十分な量を散布する)
- ③ 【カイガラムシ類対策】：発生園は被害部を金ブラシ等で削り落す作業を実施する。
- ④ 【コスカシバ対策】：発生園は被害部の樹脂を取り除き、フェニックスフロアブルの500倍(開花期まで、1回)を樹幹部に散布、または、ガットサイドS1.5倍液(もも30日前、1回。ネクタリン使用不可)を樹幹部に塗布する。

【凍害対策について】

樹の枯死は、冬季の気温上昇と3～4月の寒のもどりによって樹体凍害が発生し、それが原因で樹勢衰弱・枯死に至っていると考えられております。また、園内環境(排水性・風当たり等)によっても凍害の発生に差が見られるため、凍害の多発園地では、以下の事項にご注意ください。

- ①稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去を遅らせる。(4月下旬頃に除去する)
薬剤散布が樹幹にかかりづらい状況になるが、本年は生育が早まると予想され、特に凍害発生が心配されるため、稲わら等の除去を遅らせる。
- ②排水性の悪い園地では、暗きよや明きよ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は、浅植えとする。
- ③風当たりの強い園地では、防風ネット、防風林等の導入を検討する。

【摘蕾】：凍霜害の被害が心配される園地でも、高品質生産に向けて摘蕾を実施する。

時期：3月下旬～4月上中旬(蕾の先端がピンク色になるまでふくらんだ頃が効率良い)
遅れた場合は落花期までに花摘みを行なう。

◎摘蕾の方法

- ①主枝・亜主枝・側枝など伸ばす枝の延長枝はすべて摘蕾し、垂れないよう強く保つ。
- ②真上、真下の蕾を除く。斜め、横向きは残す。
(凍霜害が心配される場合は、真上の蕾を除く)



図1-10 摘蕾の方法

- ③結果枝の長さによる、摘蕾方法は右図を参照。